

2008 年度(平成 20 年度)

事業計画

2008年(平成20年)3月27日

学校法人 上智学院

I. はじめに

学校法人上智学院は2011年に法人創立100周年を、2013年には、上智大学創立100周年、上智短期大学創立40周年、上智社会福祉専門学校創立50周年を迎えます。

また、2008年は、上智大学設立準備のため、3人のイエズス会士が来日してちょうど100年目となる、上智学院にとって重要な節目でもあります。

日本の高等教育機関は、年を追うごとに国際的な競争の中に組み込まれ、日本国内を相手にしていればよいという時代は終わりを告げました。世界水準の教育研究、国際的レベルでの「大学の質の保証」が求められる反面、国庫補助金の減少傾向と質的な変化により、自助努力が更に求められています。

大学をめぐる情勢が刻一刻と変わる中で、上智学院は、建学の精神に基づく教育研究や社会貢献・国際貢献を一層進め、「世界に並び立つ大学」への進化を目指し、2008年度の事業計画と予算案を策定しました。本事業計画は、大きく3つの項目から構成されています。第1項目は「教育・研究に係る重要課題と事業計画」を、本学院が設置する上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校の各部門について詳しく述べ、第2項目は、管理運営の重要課題と事業計画、第3項目として、2008年度予算の概況を經常予算と特別予算とに分け、それぞれの具体的措置を述べております。

II. 創立100周年(A.D.2013)上智大学教育・研究・キャンパス再興 グランド・レイアウト(2001年～2013年 中・長期計画)

本学院は「世界に並び立つ大学」への進化を目指し2001年に、「創立100周年(A.D.2013)上智大学教育・研究・キャンパス再興『グランド・レイアウト』」(中長期計画)を学内外に公表しました。「グランド・レイアウト」は次の「基本的方向・姿勢」を掲げ、「恒常的な自己変革体制」の確立を図り、創立第2世紀に向けて邁進しています。

グランド・レイアウトの基本的方向と姿勢は、次のとおりです。

- (1) 優位性・独自性を樹立する。
- (2) 国際的評価を得る高等教育機関として存立する。
- (3) キャンパス・ライフの環境条件を整備充実させる。
- (4) 21世紀を見据えた教育研究体制を確立するための組織・職制・人事計画を整備する。
- (5) 学生納付金・補助金・募金・寄付金・収益事業計画、財政計画を樹立し、新しい財政基盤を整備する。
- (6) 選択と集中を原則とする。
- (7) 組織、構成員参加型手法を採用する。

本学院は、「グランド・レイアウト」を推進し、実現するために「長期計画企画拡大会議」(理事長、学長、理事、学院評議員、大学評議会議員等の約100人で構成)を設置し、さらに、この「拡大会議」のもとに、具体的検討と計画立案を行うことを目的とした9つの専門部会を同

時に設置し、活動しています。また、「グランド・レイアウト」の10数年に及ぶ推進期間を3期に区分し、実行段階に至った計画を初代学長に因んで「新ホフマン計画」(総称)と呼び、個々の計画の実現を図っています。

これまでに、教育研究面(アカデミック・プラン)においては、法科大学院、総合人間科学部・総合人間科学研究科、地球環境学研究科、国際教養学部、グローバル・スタディーズ研究科を設置し、また、経済学研究科の再編を行いました。さらに、研究機構を設置し、研究面における「集中と選択」を実施しつつあります。

施設設備面(フィジカル・プラン)では、2号館及び12号館の新築、既存建物のリニューアルを進め、教育研究環境の整備を行っています。

Ⅲ. 第2期(2006年～2010年 中・長期計画) グランド・レイアウト

本学院理事会は、第1期では教育組織や研究体制、建物建設や事務組織の構築といった、いわば「枠組み」あるいは「ハード面」を重点に取組み、多くの新ホフマン計画が実現した実績を踏まえ、2006年1月に「グランド・レイアウト第2期に向けて」を発表しました。

2008年度は、2001年5月から始まった『創立100周年(A.D.2013) 上智大学 教育・研究・キャンパス再興「グランド・レイアウト」』の第2期の3年目にあたります。グランド・レイアウト第2期では、第1期(2001年～2005年)の実績を踏まえ、「教育研究活動」そのものとその「支援」、「ソフト面」を重点化する方向を示しています。

具体的には、「全人教育・教養教育のあり方」や「入試制度・業務体制の改善」、「学術交流の促進」や「研究・教育等の実績に基づく教員評価制度の導入」、「研究のための安定的な資金調達」、「学生支援体制の確立」、「職員人事制度の再構築」、「資産運用の強化」などを重点課題と位置づけています。

「キャンパス・ライフの環境条件を整備充実」については、第1期に引き続き重要課題とし、「キャンパス(四谷・市谷・石神井・秦野・真田濠)の利用計画」などに取り組んでいます。

なお、これまでに実現した「新ホフマン計画」の円滑かつ発展的な活動を促進するとともに、それらについて必要な評価・点検等のフォローアップを行うこととします。

Ⅳ. 2008年度の教育・研究計画に係る重要課題と事業計画

1. 上智大学の重要課題と事業計画

「グランド・レイアウト」第2期3年目にあたる2008年度においては、前年度同様、学部・研究科等の教学基本組織改組による“教育課程の個性化”に連動する流れの中で、全学的な教育研究機能の強化施策を推進していくことを計画しています。その中心的な課題は次のとおりです。

- ①現代における上智らしい教養教育のあり方の検討審議
- ②大学院教育の個性化と高度化
- ③研究教育活動のグローバル化奨励
- ④地域への大学開放/生涯学習支援と社会貢献の規模拡大

教育面にあつては、国外の様々な社会活動、企業活動においてリーダーシップを発揮し得る人材を養成すること、即ち、国際通用性に加えて、**Multiplying Agents** (他者に波及的影響を与える)の資質を有する人材を国際社会に多数輩出することを掲げています。この目標達成のためには、本学独自の教育課程の編成と“個”を重視する教育制度を整備していくことが前提ですが、このことに加えて福利厚生面において学生を個別に支援する施策の展開や教育設備・高度IT・メディア環境の整備等を併行して進めていく必要があります。

研究面の目標としては、基礎研究を堅実に積み重ねていき、研究成果リポジトリを構築し、公開していくこと、そして特定の研究分野で世界的な規模で学界に影響を与えることや、国際共同研究等で高い評価を受けることを掲げています。この目標を実現するためには、研究機構の体制強化と、特に将来有望な若手研究者への助成に重点を置くことが肝要となります。

上記の基本方針の下に、2008年度の事業計画を次のとおり策定し、全学の連携協力のもとにこれを着実に実現していきます。

重要課題と事業計画

(1) 教育研究組織等の改編

- a. 学部・研究科の再編(新理工学部・新理工学研究科の開設、新神学部・新神学研究科開設の準備、法学研究科改革)
- b. 教育支援センター(語学教育研究センター、教職課程センター、FDセンター、生涯学習支援センターなど)の設置の検討

(2) 入試(入学)制度の再構築と入試実施体制の改善

- a. Admission Policy / Education Policyの明示を基軸とした広報戦略の強化
- b. 新神学部・新神学研究科の重点的広報

(3) 教育機能の強化

- a. 全人教育・導入教育実現のための教育課程立案
- b. “成績評価厳格化”のための具体策検討
- c. 履修登録単位数上限(CAP制)の見直しと規程化
- d. 授業改善アンケートの実施とFD活動への反映
- e. TA制度の見直しによる授業支援強化
- f. 寄附講座の積極的受け入れ
- g. 大学院教育の個性化・高度化に向けた施策の検討(大学院入学前科目履修制度の活用と早期修了の促進、海外におけるフィールドワーク展開)
- h. 国内外大学院教育コンソーシアム形成の可能性検討
- i. 学生・教員ポータル・システム(Loyola)の本格稼働
- j. 教育設備・高度IT・メディア環境の整備(コンピュータールームの整備拡充、新タイ

プのマルチメディア教室の検討など)

- k. CALLシステムとTVセンターシステムの融合による授業用マルチメディア教材・自習用e-learning教材開発とその環境整備

(4) 研究機能の強化

- a. 研究機構の体制整備
- b. 競争的外部資金の獲得に向けた支援体制の整備
- c. 研究関連施設の改善と充実
- d. 知的財産管理体制の整備
- e. 研究支援強化に向けた研究推進奨励費及び研究支援事業費の整備・有効活用
- f. 公的研究費の管理・監査体制の強化
- g. 教育研究成果リポジトリや図書館などの学術情報基盤の整備充実
- h. 国内外学術交流の促進
- i. 女性研究者養成・研究活動支援プロジェクト検討
- j. 研究・教育等(学内行政参画・社会貢献等を含む)の実績に基づく教員評価制度の導入検討

(5) 国際性の進展

- a. 海外派遣(留学・研修)制度の拡充計画推進
- b. 外国人留学生受入支援体制の検討
- c. 外国語(特に英語)による授業科目の全学的開設の検討
- d. 国際機関との情報交換、連携協力
- e. 国際共同研究への参画奨励策の検討
- f. 東アジア・イエズス会4大学グローバルリーダーシッププログラムの実施
- g. アジア現地研究拠点での国際貢献(アジア人材養成研究センター)

(6) 地域貢献・社会貢献の拡大

- a. 生涯学習ネットワークの形成(地方自治体等との連携など)
- b. 学部授業の社会人への開放規模拡大
- c. ソフィア・コミュニティ・カレッジの個性化
- d. 千代田区立図書館、公私立大学図書館コンソーシアムとの連携
- e. 学術講演会“Sophia Distinguished Lecturer Series”の定期開催

(7) 学生支援制度・体制の整備充実

- a. 入学する学生層の変化(入試種別・学力差・経済力・年齢差・グローバル化等)に対応した施策の展開
- b. 修学支援のためのサポート体制の整備
- c. 経済支援制度の拡充
- d. 女子学生寮の整備
- e. 心身に障害をもつ学生への支援の取り組み
- f. ボランティア・プログラムの推進
- g. 海外課外教育プログラムの推進
- h. キャリア形成支援プログラムの推進

i. 企画応募型の課外活動助成制度の推進

2. 上智短期大学の重要課題と事業計画

上智短期大学は「夢を応援する大学」として、本学に受け入れた学生一人ひとりに責任を持ち、アカデミックな面での成長ばかりでなく、課外活動・学生生活・進路などのあらゆる面で学生が人間的に成長することを支援するために、次の重要課題並びに事業計画に取り組みます。

また、短期大学の将来構想については、短大教育及び女子教育の原点を確認しながら、秦野キャンパスの有効利用と地域連携活動の推進をキーワードに、本格的な検討を行います。

重要課題と事業計画

- (1) 短期大学の将来構想に関する検討の促進と中間報告の作成
- (2) 受験生の安定的確保のための戦略策定と学生募集活動の強化
- (3) 学生の成長を促進する学生支援サービスの体系化と展開(学生支援GP申請)
 - a. 入学前教育を含めた導入教育プログラムの立案と実施
 - b. 就職内定率100%、編入学試験合格100%を目標とした進路決定力の養成
 - c. 学生の地域活動に対する総合支援体制の整備
- (4) 卒業生の全国的なネットワーク強化と本学との連携支援関係の深化
- (5) 教育施設(ゼミ室・グループ学習室等)及び学生支援施設(学生ラウンジ等)の整備・充実

3. 上智社会福祉専門学校の重要課題と事業計画

上智社会福祉専門学校の管理運営については、安定性、将来性を確保しつつ、重要課題並びに事業計画に取り組みます。

今後、労働環境等において益々厳しくなると思われる社会福祉の世界に携わる人々の育成、支援を、継続的に行うことができる学校であり続けられるよう、これを推進します。

重要課題と事業計画

- (1) 2009年度に向け、2007年度改正「社会福祉士及び介護福祉士法」及び設置基準等に基づく、各養成施設の教育・研究活動の改善・改革
- (2) 「上智社会福祉高等教育・研究センター」設立の検討
- (3) 志願者の安定的確保策の検討と学生募集活動の強化
- (4) 介護福祉士科の改革(定員変更、授業時間及びカリキュラムの変更)
- (5) 介護福祉士養成への各種研修コースの開設(介護福祉士受験者への介護技術講習会の実施)

- (6) 社会福祉有資格者への専門的・継続的教育の開設・充実(【中堅介護職の総合的・専門的・継続的研修コース】の充実・実施)
- (7) 実習関連等科内業務の効率化
- (8) 各科学生への経済・就職等各種援助

V. 2008年度 of 管理運営面における重要課題と事業計画

法人及び設置する学校の管理運営については、健全性、透明性並びに効率性を確保し、次の重要課題、事業計画に取り組みます。特に、21世紀を見据えた教育研究体制を確立するために、「財政基盤」、「キャンパス整備」並びに「制度改革」に取り組み、「組織」の整備、充実に向け、継続してこれを推進します。

学院全般に係わる事項

- (1) ガバナンス、内部統制、監査体制の強化、充実
- (2) 危機管理(災害・事故・伝染病等)体制充実のための実行計画立案
- (3) USR(大学の社会的責任)活動の推進と社会との連携強化
- (4) 教学部門と管理運営部門との連携による、上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校の「ブランド」力強化のための方策検討と、方策実現のための財政面での支援
- (5) 地球環境に配慮した省エネをはじめとしたエネルギー対策、環境対策の実施
- (6) 2009年の大学基準協会認証評価に向けた本評価の実施
- (7) 創立100周年記念誌編纂作業推進のための計画立案

財政基盤の確立

- (1) 資産運用体制のさらなる強化
- (2) 寄付金収入増大に向けた募金活動の活発化を促す諸方策の検討
- (3) 管理経費の増加抑制策の策定と経費削減運動の推進
- (4) 固定資産有効活用の具体化の検討および「第2麴町ビル(仮称)」建設計画の検討

キャンパス整備計画

- (1) 理工学部を中心とした建築物並びに6号館解体跡地の建設計画の策定
- (2) 四谷・市谷・秦野・石神井キャンパスの利用計画の検討
- (3) 真田濠グラウンドの契約期限到来に伴う対応策の検討
- (4) 秦野キャンパス全体(短期大学を含む)のセキュリティ強化と施設の改善、有効活用の推進

制度改革と組織整備

- (1) 教員所属組織の定員数策定及び教員評価制度の導入の検討

- (2) 教員の処遇改善等を含む「教員人事制度の再構築」の着手
- (3) 教育研究の補助体制の整備(特別研究員及び研究補助員制度の実質的運用とTA制度の見直し)
- (4) 新職員人事制度の実質的運用及び新教育研修制度の導入による人材育成と意識改革の推進
- (5) 事務運営組織の見直しと職員人員構成、適正配置の推進及び業務委託の改善
- (6) 学部・研究科事務組織の再編検討
- (7) 学内情報システム構築の推進と職員の情報処理能力の向上

VI. 2008年度予算方針と計画の概要

本学院の重要事項と事業計画については前述のとおり、「教育・研究」に関わるもの、「管理運営」に関わるものに分けてそれぞれ詳しく説明しましたが、それらを具現化するためには適切な予算措置が必要です。その予算措置にあたっては、数度にわたる予算委員会における審議、常務会・理事会の決定による予算編成大綱等に基づき、2008年度も限られた財源の重点的使用および支出削減を基本として予算を編成いたしました。

以下、2008年度予算の概況を經常予算と特別予算とに分け、それぞれの具体的措置を説明します。

1. 經常予算(毎年の事業継続に必須の維持費等)の具体的措置

- a. 消費収支全体では、上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校の各経理単位は、予算の編成において消費収入と消費支出の均衡を図るよう努めることを基本方針とします。
- b. 人件費では、教職員給与の改定等を十分に考慮に入れた上で、総額で可能な限り抑制し、嘱託教員・非常勤教員人件費についても、適正なカリキュラム編成に併せて、可能な限り抑制します(人件費総額で116億円、2007年度修正予算対比3億円増)。特に、非常勤教員の人件費は、前年度実績の範囲内を目途として予算を編成します。また、本年4月より有期契約職員の採用を予定し、現行の嘱託職員の採用は原則として止めしており、臨時職員については、総額で前年度予算と同額以内とします。
- c. 上智大学専任教員各個研究費・大学院研究費は、2007年度予算と同額(308百万円)とし、理工学部講座研究費は講座制の廃止及び理工学部の再編に合わせ、より効果的な執行結果が得られるよう研究費の取扱を変更します。さらに、上智短期大学各個研究費単価は、上智大学と同額(6.5百万円)とし、上智社会福祉専門学校各個研究費単価は、2007年度予算と同額(1百万円)とします。
また、上智大学学内共同研究費、上智短期大学学内共同研究費は、2007年度と同額(34百万円)とします。
- d. 学部予算(学部学科の運営に係る予算)及びその他の部門の予算申請についても

2007年度予算と同額(264百万円)とします。

しかしながら、実際の予算執行にあたっては必ず複数の見積もりを取るなどして極力、実支出額を抑制することとし、また、予算の計画的な執行に努め年度末に予算額の大半を消化するといったような事態は避けることとします。特に、物品の購入費、システム関係経費は再度内容の見直しを行い、支出の増額を極力抑えることとします。

2. 特別予算の概要(当年度固有の事業及び新規事業に係る費用)の特別措置

本学院の事業計画に沿った資金面での重要事項は特別予算として決定され、その主な事項は次のとおりです。

(〔重要課題と事業計画〕該当箇所)

- | | |
|------------------------------------|---------------|
| 1. 四谷キャンパス建物の耐震診断および耐震補強工事 | V-キャンパス-(2) |
| 2. 四谷キャンパス教室の机・椅子の取替え (20百万円) | V-キャンパス-(2) |
| 3. 図書館冷凍機更新 (126百万円) | V-学院全般-(4) |
| 4. 四谷キャンパストイレ改修工事(4号館) (150百万円) | V-キャンパス-(2) |
| 5. 秦野キャンパス建物の耐震診断 (10百万円) | V-キャンパス-(4) |
| 6. 短期大学1号館教室改修 (37百万円) | V-キャンパス-(4) |
| 7. 短期大学エリア防犯装置の設置 (38百万円) | V-キャンパス-(4) |
| 8. 研究所施設の集約工事(第2期) (11百万円) | IV-1-(4)-c |
| 9. 理工学部再編に伴う学生実験室の改修 (11百万円) | IV-1-(1)-a |
| 10. 大型装置・図書の購入整備(補助金申請対応) (240百万円) | VI-(1)-g |
| 11. ソフィアシンポジウムの開催 (3百万円) | |
| 12. 教育・研究成果のデータ蓄積と公開環境の整備 (10百万円) | IV-1-(4)-g |
| 13. 業務系コンピュータシステムの更新 (119百万円) | V-制度改革-(7) |
| 14. 教員評価制度に関わるコンサルティングの実施 (10百万円) | V-制度改革-(1)(2) |
| 15. 外国語学部50周年記念事業 (2百万円) | |
| 16. 新神学部・神学研究科設置に係る広報活動 (5百万円) | IV-1-(2)-b |
| 17. 所蔵図書のデータ入力整備(石神井分館) (40百万円) | IV-1-(4)-g |
| 18. ホフマン・ホール改修工事(第8期) (25百万円) | V-キャンパス-(2) |
| 19. スチューデントラウンジの整備 (2百万円) | V-キャンパス-(2) |

2008年度資金収支予算(学院)

(単位:百万円)

科 目	2008年度予算	2007年度予算	対 比(08年度-07年度)
収入の部			
学生生徒納付金収入	13,451	13,410	41
手数料収入	992	1,058	△ 66
寄付金収入	1,325	1,173	152
補助金収入	2,417	2,615	△ 198
資産運用収入	1,337	1,597	△ 260
資産売却収入	10,000	10,808	△ 808
事業収入	667	696	△ 29
雑収入	932	828	104
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	4,043	4,274	△ 231
その他の収入	3,554	1,010	2,544
資金収入調整勘定(△)	△ 4,853	△ 5,204	351
収入の部合計	33,865	32,265	1,600
支出の部			
人件費支出	11,479	11,331	148
(退職金支出)	(992)	(827)	(165)
教育研究経費支出	6,028	5,322	706
管理経費支出	1,350	1,228	122
借入金等利息支出	163	180	△ 17
借入金等返済支出	772	1,172	△ 400
施設関係支出	328	1,696	△ 1,368
設備関係支出	750	793	△ 43
資産運用支出	12,680	10,000	2,680
その他の支出	426	734	△ 308
予備費	709	707	2
資金支出調整勘定(△)	△ 374	△ 666	292
支出の部合計	34,311	32,497	1,814
資金収支過不足額	△ 446	△ 232	△ 214

2008年度消費収支予算(学院)

(単位:百万円)

科 目	2008年度予算	2007年度予算	対 比(08年度-07年度)
収入の部			
学生生徒納付金	13,451	13,410	41
手数料	992	1,058	△ 66
寄付金	1,480	1,323	157
(現物寄付金)	(155)	(150)	(5)
補助金	2,417	2,615	△ 198
資産運用収入	1,337	1,597	△ 260
資産売却差額	800	1,676	△ 876
事業収入	667	696	△ 29
雑収入	932	828	104
帰属収入合計	22,076	23,203	△ 1,127
基本金組入額合計(△)	△ 2,556	△ 3,647	1,091
消費収入の部合計	19,520	19,556	△ 36
支出の部			
人件費	11,508	11,306	202
(退職給与引当金繰入額)	(1,021)	(802)	(219)
教育研究経費	7,436	6,792	644
(減価償却額)	(1,408)	(1,470)	(△62)
管理経費	1,548	1,502	46
(減価償却額)	(198)	(274)	(△76)
借入金等利息	163	180	△ 17
資産処分差額	910	938	△ 28
予備費	679	677	2
消費支出の部合計	22,244	21,395	849
当年度消費収支超過額	△ 2,724	△ 1,839	△ 885

VII. 結 び

上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校は、教育研究を取り巻く厳しい環境の中、更なる充実発展を図るため日々の努力を重ねています。

各校は、2008年度も引き続き、更に財務強化策の検討、志願者・入学者の確保、教育研究の充実、教育体制の改編、教育研究環境の整備等及びキャンパスの有効利用についても検討を重ね推進します。

本学院は、“Men and Women for Others, with Others”（他者と共に、他者と生きる）の建学の精神のもと、教育活動、研究活動並びに社会貢献、国際貢献をもって、日本そして世界の発展に寄与するとともに、「世界に並び立つ大学」に進化することを目指します。

以 上